



彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク  
**あったかウェルねっとニュース 第22号**

2016年7月12日発行

ホームページアドレス <http://www.geocities.jp/attaka17/>

**15周年記念号**

2011年3月11日の東日本大震災より5年が過ぎました。失われた多くの尊い命のご冥福を祈り続けるとともに、一日も早い被災地の復興・復旧を願い、被災された皆様の安心安全を心よりお祈り申し上げます。

あったかウェルねっとの「ウェル (WELL)」は、Welfare (福祉)、Well-Being (幸福) の Well (大切にという意味) で、「温かな心で一人ひとりを大切に思うつながり」でありたい、との願いが込められています。

**あいさつ**

15周年のテーマは「わかもの」

あったかウェルねっと代表 横田八枝子  
 (坂戸市・第1期推進員)

早15年。21世紀に入った2000年から県社協主催の福祉教育・ボランティア学習推進員養成研修が始まり、翌2001年から今日まで、あったかウェルねっとは、地域の皆様と「福祉教育=ふだんのくらしのしあわせ=共生社会の構築」に向けてのあゆみを続け、15年が過ぎました。しかし、社会課題は「2025年問題」「格差の拡大」「子どもの貧困」「18歳選挙権実施」など複雑に重なり合っている現状です。そこで、本ネットワークでは15周年のテーマとして「わかもの」を取り上げ、若者が「共に生きる力」を育み、社会福祉意識を創り出す「サービスマーケティングプログラム」の創出・実践を行い、広くそのプログラムを発信・普及するために、ネットワーク内のプロジェクトとして本研究会(右記)を立ち上げることとなりました。

このプロジェクトの実践と研究を通して、埼玉そして日本に住む若者が、共に生きる力を身につけ、安易な自立観ではなく、相互実現的自立の視点を持ち、社会の一員として自分らしく歩んでいけるような福祉教育を創造していきたいと考えています。

次世代の若者が活躍する「埼玉県」を思い描きながら、ご賛同ご参画をお願いします。

**お知らせ**

下記のとおり、研究会設立の会を開催します。是非、ご参加ください。

**若者への福祉教育研究会  
 【研究会設立の会】**

- ◆日時：8月10日(水)  
 開会14:20 閉会17:30
- ◆場所：ウエスタ川越(3階)研修室2・3
- ◆内容：鼎談「埼玉発！～若者への福祉教育とサービスマーケティングの意義～」  
 コーディネーター 原田正樹氏(日本福祉大学教授)  
 コメンテーター 河村美穂氏(埼玉大学教授)  
 コメンテーター 村上徹也氏(市民コンサルタント&日本福祉大学教授)
- 話題提供 熊倉悠貴氏(筑波大附属坂戸高校)
- ◆研究会の事業計画(案)  
 2年間の研究期間を定め、その間に県内数箇所では若者(概ね高校生・大学生)対象のサ

ービスラーニング等プログラムを開発し実施する。実施後プログラムの有効性について検証し、県内で普及を図る。

《モデル事業実施案》

1. 高校におけるプログラム開発
2. 大学におけるプログラム開発
3. 地域におけるプログラム開発

(申込先) あったかウエルねっと15周年担当

牧野 メールアドレス: aiminahayato@gmail.com

又は、牛久保 メール: shino0319sakura@gmail.com

## 報 告

あったかウエルねっと15周年となる2016(平成28)年度の活動がスタートしました。

### 報告 その1

#### あったかウエルねっと2016年度総会

5月8日(日)、交流セミナー2016に先駆けて、あったかウエルねっと総会を行いました。

平成27年度事業報告・決算報告に続いて、平成28年度運営担当・事業目標と事業計画・予算の各案が満場一致で承認されました。



平成28年度総会(彩の国すこやかプラザセミナーホールにて)

#### 平成28年度事業計画(案)より抜粋

1. 県社協及び市町村社協と連携し、福祉教育・ボランティア学習の推進及び啓発を行い、「共に生きる」ノーマライゼーション社会の醸成を図る。(あったかウエルねっと15周年事業を含む)
2. 県社協、市町村社協と、あったかウエルねっとが協力し合い、地域の「子ども・若者の福祉力」(生きる力)を高めていけるよう、できる範囲で、地域の特性や会員・賛助会員らの専門性を活かし、福祉に関心のある人たちとの『出会いの場』『学びの場』をつくり、「共に生きる」「ふ・く・し」の輪を広げていく。(以下略)

### 報告 その2

15周年記念特集

#### 15周年事業 あったか福祉交流セミナー2016

「18歳とふくし」

～未来への種まき、若者力を育てよう～

5月8日(日)、彩の国すこやかプラザ2Fセミナーホールにて、埼玉県社協との共催で午前11時から行われ、県社協の澤事務局次長、ねっと設立からご指導いただいている原田正樹先生(日本福祉大学教授)、佐藤陽先生(十文字学園女子大学教授)から、ねっとへの温かいエールをいただき開会しました。

まず、参加者の学生4団体、大学2団体、市町村14団体、県2団体より、日頃の活動内容や熱い想いのブース紹介があり、その後の交流時間には各ブースに大勢の参加者が集い、情報交換が活発に行われました。

原田正樹先生の講演では「若者の福祉文化」の醸成をめざして、県内各地からの参加者109名が共に学び合いました。

グループワーク「18歳とふくし」では、ファシリテーター(2期推進員の牛久保さんと牧野さん)の進行で、様々な立場の人たちが出会って地域とつながり、ともに幸せに暮らすには何が必要かを学び合い、「豊かな心」「共に生きる力」を育み、これからに向けて「ふくしの輪」を広げました。

#### －開会式－



埼玉県社会福祉協議会との共催で行われたセミナーの開会式。(要約筆記・手話通訳あり) 県内各地からの参加者は109名となりました。

## －ブース展示・アピールタイム－

展示発表の22団体が日頃の様々な取り組みをアピールしました。(発表順)

1. 高校生ボランティア交流会 (埼玉県社会福祉協議会)
2. 共に生きる力を育む福祉教育の推進  
～福祉の種まき～ (あったかウェルねっと)
3. 「ブラインド・インザ・毛呂山」 「小学校福祉教育ブース体験」 (毛呂山町社会福祉協議会)
4. 地域の力をつくるお手伝い(川越市社会福祉協議会)
5. ニュータウンふくしプラザの活動について  
(ニュータウンふくしプラザ)
6. ふくふく木曜会  
(東松山市社協・嵐山町社協・吉見町社協)
7. よしかわジュニアボランティアスクール  
(吉川市社会福祉協議会)
8. 「あいさぽーと運動」で障がいを知る福祉の教育  
(富士見市社会福祉協議会)
9. 「社協・推進員・教育委員会で協働実践16年」  
「小学生へ高校生がやさしいことばでサポート」  
(坂戸市社会福祉協議会)
10. やさしさのたねをまいたら えがおさく  
(和光市社会福祉協議会和光市ボランティアセンター)
11. 地域のこどもは地域の宝！  
(和光市ボランティア連絡会)
12. 広げよう小さな輪 in 坂戸  
(郡山の子どもたちと遊ぶ会)
13. 子どもからの認知症講座と福祉教育  
(ボランティアグループしゃぼん玉(川越市))
14. 障害があっても、誰もが地域で 安心安全に暮らしている 共生のまちづくり  
(鶴ヶ島市障がい者支援ネットワーク協議会)
15. 誰もが地域で自分らしく ともに豊かに暮らせるまちづくりにむけて (ういず・共に(鶴ヶ島市))
16. 高齢者と中学3年生との4年間のふれあい交流授業  
(地域交流ボランティアよりあい\*ええげえし(坂戸市))
17. 彩の国連携力育成プロジェクト～「連携力」の高い専門職を育てる4大学合同プロジェクト  
(彩の国連携力育成プロジェクト (埼玉県立大学、

- 埼玉医科大学、城西大学、日本工業大学))
18. 聖学院大学学生のボランティアの取り組み紹介 (復興支援活動を中心に)  
(聖学院大学ボランティア活動支援センター)
  19. 岩手県釜石市での活動報告  
(聖学院大学復興支援チーム【SAVE】)
  20. 学生×熊谷市 協働でバリアフリーマップを作成  
(立正大学社会福祉学部ボランティア活動推進センター)
  21. 団地 cafe さぶり～団地の高齢者のコミュニティ活性化～ (女子栄養大学実践運動方法学研究室4年)
  22. Sitting Ballet ～座ってできる簡単バレエ～  
(女子栄養大学実践運動方法学研究室4年)



活動をアピール

短時間で手際よく発表し合いました。



ところ狭しと掲示された22団体(社協、地域団体、大学、大学生等)の多彩な活動風景。



ブースを巡ったり、取り組みの説明を聞いたり、お互いを知る良い機会となりました。

—講演「18歳とふくし」—

講師：原田正樹先生（日本福祉大学教授）



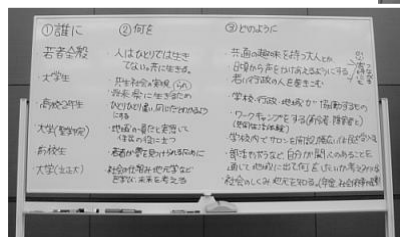
- ◇「福祉教育で育む自立」
    - \*社会的有用感・自己肯定感
      - ⇒小さな手こんな自分でもできること
    - \*共生的人間観＝共に生きる力
      - ⇒一人一人違う人間 一人一人同じ人間
    - \*自己の成長と社会とのつながり
      - ⇒私の問題を私たちの問題にしていく
  - ◇「つながりの再構築」（主体的な参加を可能にしていく地域づくり）
  - ◇「自立と尊厳」（内面からわき起こる意欲と幸福追求に向けた想い）
  - ◇「相互実現的自立」（相互に支え合う地域を構築＝ふだんのくらしのしあわせ）
  - ◇「ボランティア」（本人の自発性、自主性）
  - ◇「コミュニティサービス」
    - （地域社会の一員としての責務、義務。教育活動としてのノルマ、評価を伴う活動）
  - ◇「サービスマーケティング」
    - （コミュニティーサービスを活用した学習活動＝地域社会の一員としての自覚を滋養する＝自らの生き方と地域の問題を解決していく力を育む学習方法＝地域から体験的に学ぶ＝市民性を育む意図的な福祉教育）
  - ◇「人間関係の再構築」（人との関わりを大切に、学校・活動先・地域との協同実践の効果）
- …等々、たくさんの深い学びがありました。

—グループワーク—

ワークショップ「若者たちへ福祉教育実践を企画しよう」では、各班6～7名のメンバーが、「誰に・何のために・どんなことをどう伝えるか」を考え合いました。



様々な立場、経験から活発な意見交換があり、楽しい交流の場にもなりました。



←<板書より抜粋>

「何のために」

・共生社会の実現

- ・人は一人では生きてない、共に生きる。
- ・ひとりひとり違い、同じだと分かるようにする。
- ・地域の一員だと実感して住民の役に立つ。
- ・若者が夢を見つけられるために。
- ・社会の仕組み、地元学などを学び、未来を考える。
- ・大人との関係で「気づく」
- ・地域を知る。
- ・障害のある人について知る。
- ・コミュニケーション力をあげる。

「誰に・どんなことを」では、

- ・褒められ、認められる体験や経験を増やす。
- ・大人との関わりの中で気づいていく。
- ・18才を世代間交流の中心的存在にして、発信してもらう。（大人な部分と子供な部分）

…等々、原田先生のお話の社会背景を意識しながら自由な発想で、地域の経験豊富な高齢者や障害を持つ人・若い高校生や大学生・子どもたちが一緒にできることをみんなで考え、意見交換しました。

☆…最後に原田先生より…☆

ブース展示があった22団体の活動こそが、福祉教育そのもので、サービスマーケティングも地域の中で始まっていた。また、今回は若者の話をしたが、青年期の生きる力は、早いころから子どもたちが社会に目を向け、社会に関心を持ってかかわることから育まれる。子どもからの福祉教育が肝要なことも伝えたい。

### 報告 その3

#### まなびば しゃべりばカフェ 第8回 夏カフェ

熊谷市バリアフリーマップ「あのくま」を題材に  
感じてみよう！バリアフリー

7月1日（金）、報告その2の3ページ右段「20. 学生×熊谷市 協働でバリアフリーマップを作成」した現地で夏カフェを実施しました。



会場もマップに掲載されているログハウスの喫茶店「カフェストライク」に協力していただきました。

学生との協働事業に関わった熊谷市役所職員、立正大学ボランティアセンター職員と学生スタッフ、熊谷市在住の方、ねっと推進員や賛助会員など17名が参加。

若者との関わりをテーマに、ワールドカフェ方式で交流しました。



本物のカフェで  
ワールドカフェ！

<テーマ>

☆若い世代に伝えたいことは？

- ・いろんなところに出て行こう。

- ・自分を大事に、表現する。（交流が大切）
- ・若い人も笑顔であいさつする。（挨拶運動）
- ・参加したい活動を知るきっかけになる挨拶。
- ・心のバリアフリーを大事に。
- ・よく考えて、とりあえず何かをやる。
- ・続けていく中で生まれるつながり。

（一歩踏み出すことでひろがる）

☆若い世代と一緒にやりたいことは？

- ・高校普通科でも「福祉」を学ぶ。
- ・ボランティアの部活が地域のボラと連携。
- ・地域の憩いの場をつくり、世代間交流。
- ・世代間交流の接点をつくる。（地域イベント）
- ・子どもの世話を経験する。（世代間交流）
- ・学校に呼びかけて、小中から大学生と地域の中で小さい旅行。（若者との交流&障害理解）

☆若い世代と地域がつながるには？

- ・声をかけることが大切。（若い人に協力を）  
（地域で子供を育てる文化がなくなった。）
- ・若い人のパワーが地域の力になる。（行政）
- ・地域に育てて貰い成長した。（学生）
- ・学生が地域の力になる。（やりがいのある楽しい活動は学生同士で自然に繋がる。）

…等々、バリアフリーは行政と大学と地域住民の協同実践の「優しさ」の中にもあることを学んだ夏カフェでした。

### 報告 その4

#### 大学で、あったかウエルねっと活動紹介

十文字女子学園大学の地域福祉論

須田 正子（坂戸市・第3期推進員）

7月8日（金）、地域福祉論Iを学ぶ学生約70名、リカレント教育（開放授業講座）受講生の高齢者も数名いる中、あったかウエルねっとの活動を紹介。県社協の推進員養成研修から活動が始まったこと、県域での出会いと学びを通じて豊かな福祉観と共に、福祉の種まきをしてきたこと、学民共同プロジェク

ト、まなびばしゃべりばカフェ等々、今までとこれからを伝えながら、自分自身が地域での様々な活動を通じて知り合った人びとや出来事から多くを学んできたこと、これからも身近な地域活動を実践しつつ、学び続けていくことの大切さを改めて感じました。

### 県社協からの情報

県社協では、今年度新たに生活支援サポーター養成事業を実施しています。これは、2025年に向けて、隣近所の“さりげない気遣い”や“ちょっとした目配り”など、地域に関心を向けていただく応援者（生活支援サポーター）を増やしていくものです。県社協や関係機関の該当講座に参加すると生活支援サポーターとして認定されます。生活支援サポーターとして多くの方々が地域に目を向けていただき、誰もが孤立せず住み慣れた地域でいきいきと暮らせる社会の実現を目指しています。

また、8月からは、県内4か所で孤立防止フォーラムやサロン活動者のためのレクリエーション研修を実施します。

引き続き、推進員の皆様のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

#### 孤立防止フォーラム 開催予定

8月30日(火)	13:20~16:00	横瀬町社協
9月10日(土)	13:30~16:00	毛呂山町社協
9月11日(日)	14:00~16:30	幸手市社協
10月24日(月)	午後開催	三芳町社協

#### サロン活動者のためのレクリエーション研修 開催予定

9月29日(木)	本庄市社協
10月19日(水)	北本市社協
10月31日(月)	吉川市社協
11月11日(金)	朝霞市社協

### ねっと事務局より

#### 次回の「まなびばしゃべりばカフェ」のお知らせ

9月頃の開催を予定しています。

日時・場所等が決まりましたら、メーリングリストやホームページでお知らせします。

詳細はHPで！【あったかウエルねっと】で検索！

<http://www.geocities.jp/attakal7/>

#### 情報交換はメーリングリストで！

会員・賛助会員の方でメールアドレス(携帯も可)をお持ちの場合、メーリングリストの登録ができます。

希望する方は事務局までお知らせください。

ねっと事務局 須田 049-283-1865 (FAX)

メールアドレス: masako@niconico39.net

#### 会費振込先のお知らせ

活動は、ねっと会費(年1000円)で運営しています。みなさまのご協力をお願いします。

振込先: 埼玉りそな銀行武蔵浦和支店・

普通預金口座番号: 5015782

名義: 彩の国福祉教育ボランティア学習推進員ネットワーク

#### 編集後記

15周年記念号をお届けします。大切な報告やお知らせが多く、6ページにわたっての大特集号となりました。たくさんの繋がりと共にあった活動をふり返りつつ、新しい取り組みも始まります。みなさまのご協力、ご賛同もよろしくお願いいたします。

発行: 彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク (通称: あったかウエルねっと)

編集: あったかウエルねっと (情報担当)

連絡先: 埼玉県社会福祉協議会 地域活動支援課

TEL : 048-822-1435

FAX : 048-822-3078

Mail : vc@fukushi-saitama.or.jp